

え ま 絵 馬

寺院や神社に祈願するために奉納する絵入りの板額はんがくを絵馬と呼びます。板に絵を描いて奉納し、祈りや感謝の気持ちをあらわす風習は古くからあったようです。

古代の人々は、馬を神の使いとして神聖視していたため、何か願い事があると生きている馬を神に奉納したといわれています。やがて生馬のかわりに、木で作った馬形うまがたなどを奉納するほか、さらに板に描いた馬、すなわち絵馬があらわれました。

絵馬には大きいもの(大絵馬・板絵額)と小さいもの(小絵馬)があります。多くが小絵馬で、大型絵馬は室町時代になってつくられるようになりました。

絵馬が一般に流行したのは江戸時代になってからだといわれています。願い事の内容によっていろいろな図柄の絵馬がうまれました。特に手軽な小さな絵馬(小絵馬)がたくさんつくられました。現代でも、受験の合格祈願や、安産祈願、家内安全などの願いを託して、盛んに絵馬が奉納されています。



小岩神社に奉納されている絵馬



篠崎・浅間神社に奉納されている絵馬

いろいろな絵馬



にわとりは台所にまつられる荒神様(かまどの神様)のお使いです。



目の病が治るように奉納します。関東から中部地方にかけて広く見られる絵馬です。



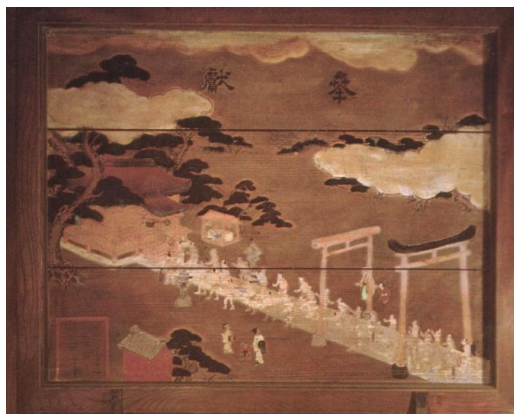
手を合わせ拜んでいる男性は、人に打明けられない悩みを神様に祈っています。



婦人の病気が治り、そのお礼にお稲荷様に奉納したものです。

上一色天祖神社の板絵額

上一色天祖神社の社殿内に8枚の板絵額があります。文政13年(1830)から明治時代中頃にかけて奉納されたものです。中でも、下図：「裸参り図」二面は、天保年間(1830～1843)にこの地方に疫病えきびょうが流行した際、病気退散のために村民の裸参りが行われたことを伝えています。



江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)